

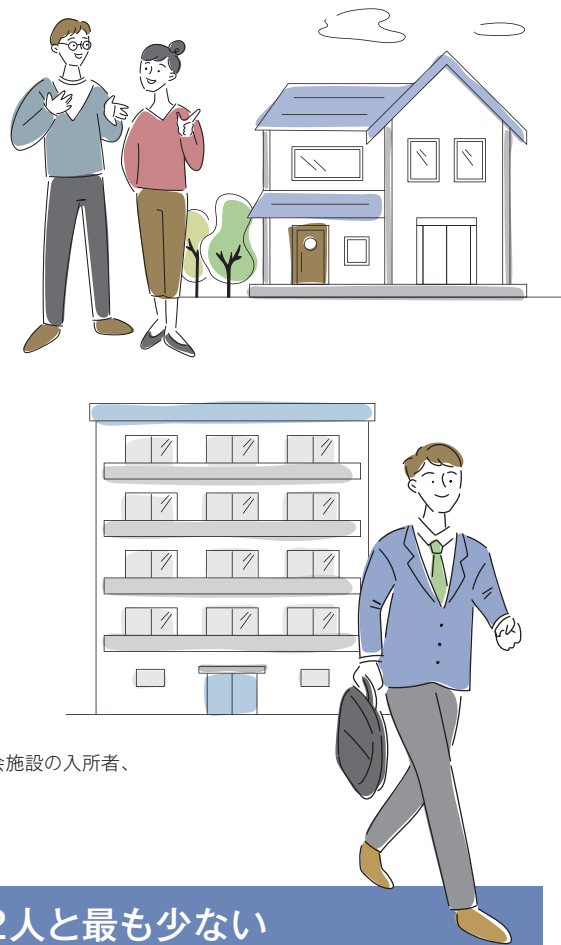
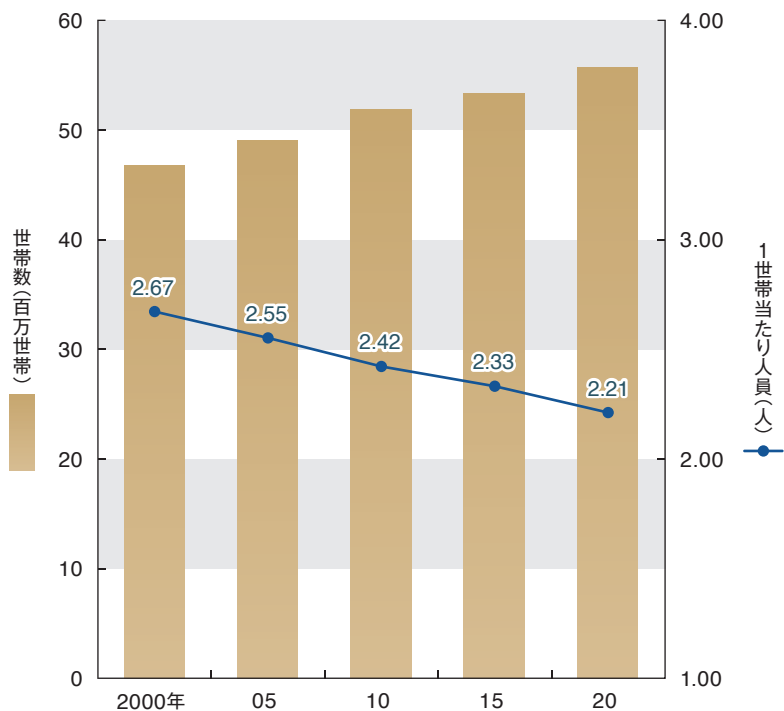
一般世帯数は5570万5千世帯

一般世帯の1世帯当たり人員は2.21人で2015年に引き続き減少

一般世帯数及び一般世帯の1世帯当たり人員の推移(2000年~2020年)

我が国の世帯数5583万世帯を世帯の種類別にみると、一般世帯数は5570万5千世帯となり、一般世帯人員は1億2316万3千人で、一般世帯の1世帯当たり人員は2.21人となっています。

一般世帯数の推移を2000年以降についてみると、一貫して増加しています。また、一般世帯の1世帯当たり人員の推移をみると、一貫して減少しており、2015年と比べると2.33人から2.21人に減少しています。



※ 一般世帯とは、施設等の世帯(学校の寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・療養所などの入院者、社会施設の入所者、自衛隊の営舎内・艦船内の居住者、矯正施設の入所者などから成る世帯)を除いた世帯
資料:国勢調査結果

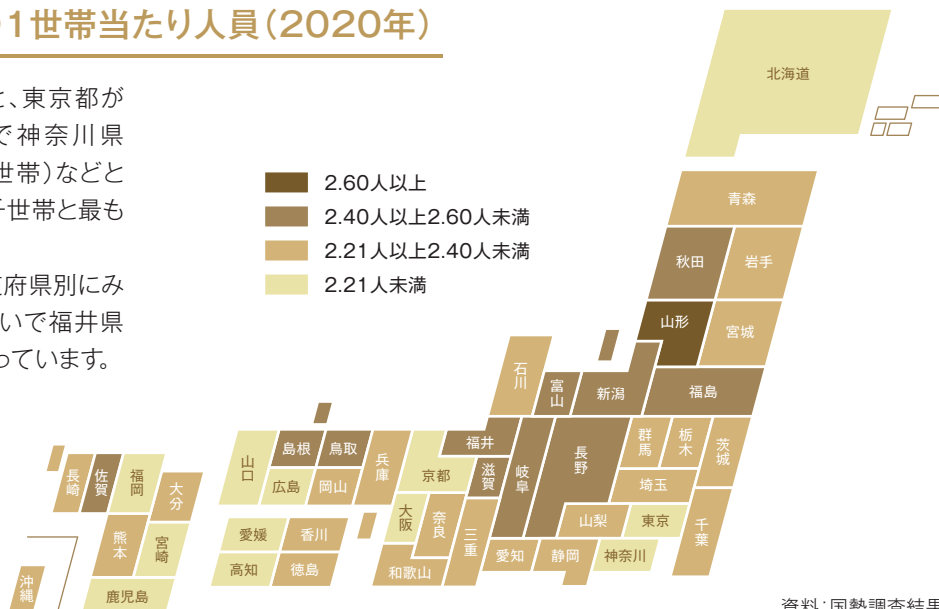
一般世帯の1世帯当たり人員は東京都が1.92人と最も少ない

都道府県別一般世帯の1世帯当たり人員(2020年)

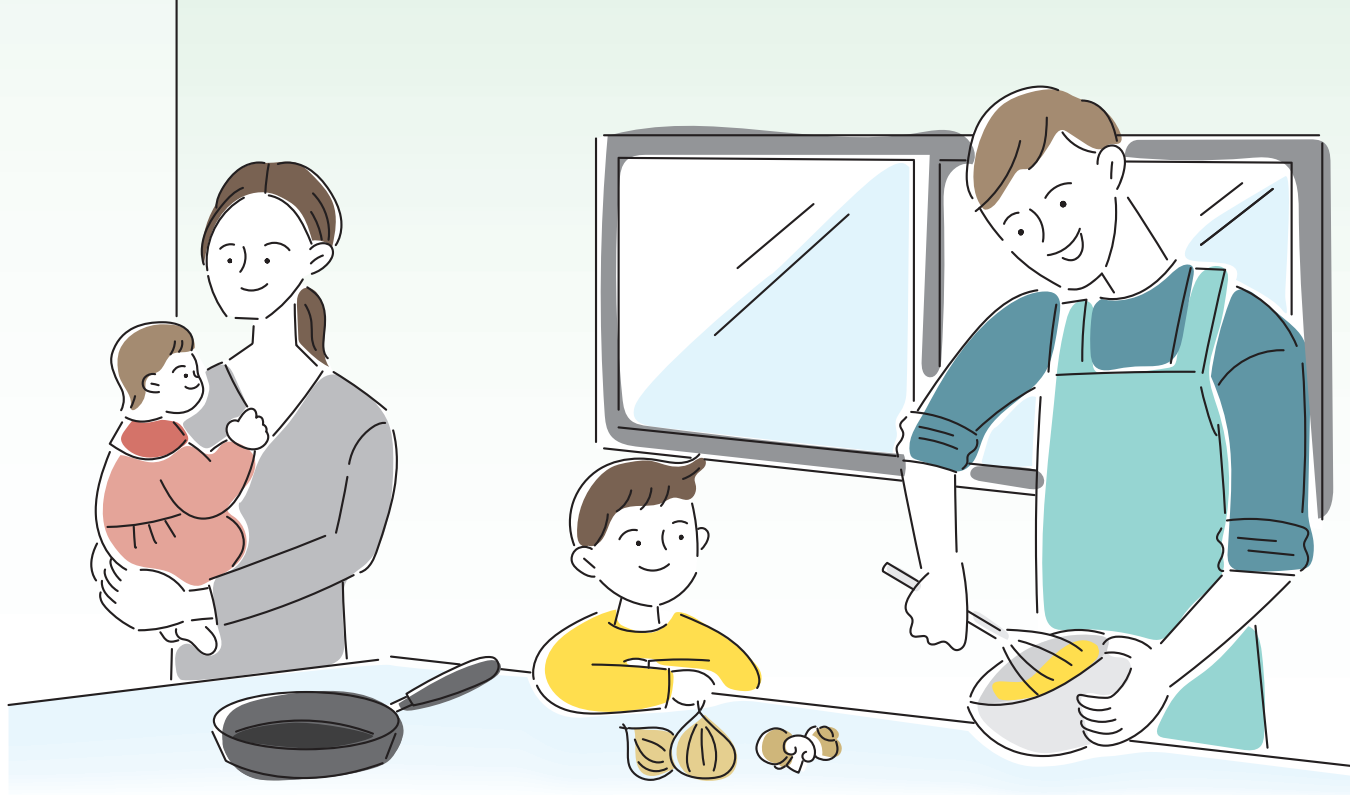
一般世帯数を都道府県別にみると、東京都が721万7千世帯と最も多く、次いで神奈川県(421万世帯)、大阪府(412万7千世帯)などとなっています。一方、鳥取県が21万9千世帯と最も少なくなっています。

一般世帯の1世帯当たり人員を都道府県別にみると、山形県が2.61人と最も多く、次いで福井県(2.57人)、佐賀県(2.51人)などとなっています。

一方、一般世帯の1世帯当たり人員が最も少ないのは、東京都の1.92人で、次いで北海道(2.04人)、大阪府(2.10人)などとなっています。



資料:国勢調査結果



6歳未満の子どもを持つ世帯の夫の家事時間及び育児時間は増加傾向、妻の家事時間は減少傾向、育児時間は増加傾向

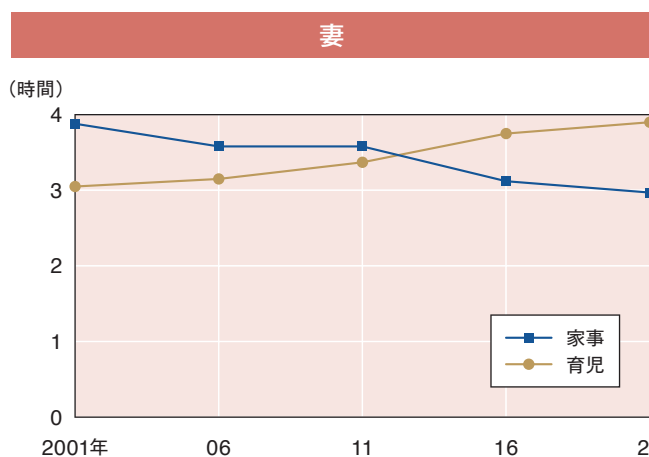
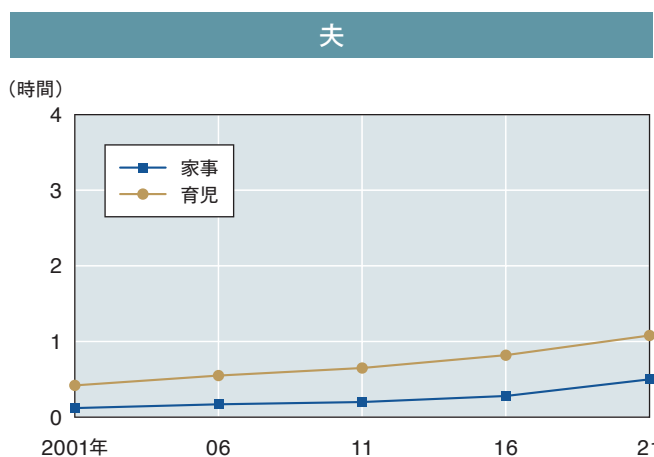
🏠 6歳未満の子どもを持つ夫・妻の家事時間、育児時間の推移 (2001年～2021年)-週全体、夫婦と子どもの世帯

6歳未満の子どもがいる世帯について、過去20年間の夫と妻の家事時間及び育児時間の推移をみると、夫の家事時間及び育児時間は増加傾向となっており、2021年はいずれの時間も大きな増加となっています。一方、妻の家事時間は減少

傾向、育児時間は増加傾向となっており、2016年に初めて*育児時間が家事時間を上回り、2021年はその差が更に拡大しています。

(時間:分)

	夫					妻				
	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年	2001年	2006年	2011年	2016年	2021年
家事関連	0.48	1.00	1.07	1.23	1.54	7.41	7.27	7.41	7.34	7.28
家事	0.07	0.10	0.12	0.17	0.30	3.53	3.35	3.35	3.07	2.58
介護・看護	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.03	0.03	0.03	0.06	0.03
育児	0.25	0.33	0.39	0.49	1.05	3.03	3.09	3.22	3.45	3.54
買い物	0.15	0.16	0.16	0.16	0.18	0.42	0.40	0.41	0.36	0.33



* 「家事」「育児」の時間を分けて把握を開始した1986年調査以降
資料：社会生活基本調査結果